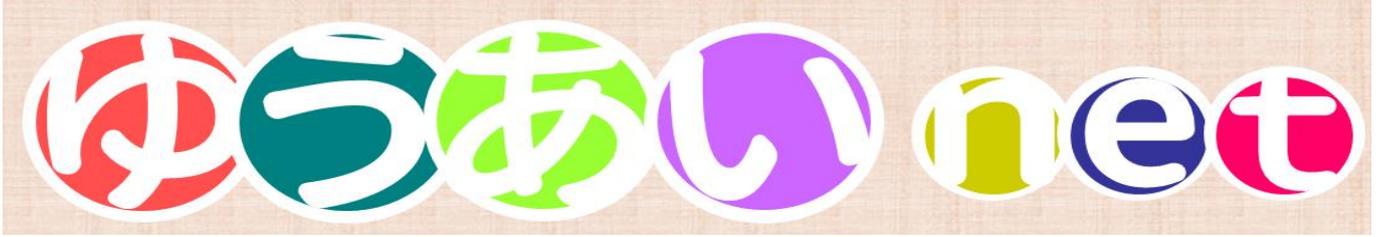


佐賀県の視覚障害教育を結ぶ



まだまだ暑い日が続いていますね。先生方、体調は崩されていませんか。

盲学校では、夏休みに第2回弱視学級担当者等研修会を開催しました。今回は4名の先生方にお集まりいただき、ビジョントレーニングや進路のことを中心とした実践を交えた研修や、日々の指導についての情報交換を行いました。

視覚機能とビジョントレーニングについて



今回の研修会で取り上げた「ビジョントレーニング」。これは、目でものの性質や状態を捉える力を高め、見たものを正しく認識したり、自分の身体をイメージ通りに動かしたりする機能を向上させるためのトレーニングです。もともとはアメリカでパイロットの訓練用に開発されたものですが、現在は、生活や学習上の困りごとの改善や、スポーツのスキルアップ等を目的として様々な形で応用されています。

ビジョントレーニングの「ビジョン」とは、ものを見る力(視覚機能)全般を指し、大きく「視機能(入力)」「視空間認知(情報処理)」「眼とからだの協応(出力)」の3つから成り立ちます。担当する児童生徒が視覚機能のどの部分に課題を抱えているのか、各機能について振り返りながら、今一度考えてみましょう。

I 視機能

視機能は、外界からの情報を取り入れる「入力」の働きを担い、視力、調節力、眼球運動等を指します。中でも眼球運動には以下の3つの働きがあります。

1 追従性眼球運動 ものを目で追う動き

例：飛んでいる鳥を目で追う、書き順を目で追う

この働きが弱いと… 文字を読み飛ばす、文字をきれいに書けない、はさみや折り紙が苦手

2 跳躍性眼球運動 あるポイントから違うポイントに視線をジャンプさせる動き

例：黒板とノートを交互に見る、文章の行末から次の行頭へ視線を移す

この働きが弱いと… 行や文字を読み飛ばす、板書を写すのが苦手・時間がかかる、球技が苦手

3 両眼視（輻輳・開散） 両目の視線を見ているものの距離に合わせて調整し、立体感や遠近感を理解する

例：近くのもの、遠くのものを見るときにそれぞれピントを合わせる

この働きが弱いと… ものが二重に見える、ものにぶつかりやすい、目が疲れやすい

2 視空間認知

目から取り入れた情報が脳へと伝わった後、「情報処理」が行われます。そこで必要なのが、この視空間認知機能で、具体的に以下のような働きをします。

1 図と地を区別する働き ものを見るときに対象物と背景を区別する

例：ノート上の鉛筆や消しゴムをとる、文章から特定の単語を探す

この働きが弱いと… 探し物が苦手、よくものをなくす、道に迷いやすい

2 形や色を把握する働き 形の輪郭や色を認識する

この働きが弱いと… 図形の問題が苦手、お絵描きやぬり絵が苦手

3 仲間を見分ける働き ものの大きさや色等に左右されず、同じ形を認識する

この働きが弱いと… 文字の形をなかなか覚えられない、人の顔を覚えるのが苦手

4 空間的な位置を把握する働き 目で見つめたものを立体的に把握し、自分との距離や大きさ、上下・左右等を認識する

この働きが弱いと… 人やものにぶつかりやすい、球技が苦手、着替えに時間がかかる

3 眼とからだの協応

視覚の働きと身体の動きを連動させることを「眼とからだの協応」と言います。「入力」「情報処理」に続く「出力」にあたる部分です。

例：キャッチボールの場面

- 1 飛んでくるボールを目で追いかける(入力)
- 2 ボールが手元にやってくるタイミングを理解する(情報処理)
- 3 ボールを目で追いつつ、手を伸ばしてキャッチする(出力)

この働きが弱いと… 文字をきれいにかけない、手先が不器用、球技やダンスが
苦手

4 ビジョントレーニングをする前に

このようにビジョントレーニングでは「よく見ること」「見たものを認識すること」「見てからだを動かすこと」を向上させることをねらって行います。逆に言えばこれらに問題がなければビジョントレーニングを行う必要はないかもしれません。

眼球の動きに問題はないか、視空間認知はしっかりできているかなどを観察し、検査なども行いながらビジョントレーニングの必要性や内容などを検討してください。

ビジョントレーニングの内容については書籍やインターネット上の情報など、参考になるものがたくさんあります。それらの中から子どもたちに効果がありそうなもの、楽しくできそうなものなどの視点で考えられたら良いと思います。

佐賀県立盲学校

電話 (0952) 23-4672

FAX (0952) 25-7044

代表メール mougakkou@education.saga.jp

お気軽に御連絡ください。巡回相談の依頼も受け付けています。